

日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第79号 2012年7月1日



帆傘船 船は木製。櫓も付く細やかさ。



帆傘船 釣り人も傘も船も紙製。全体に丸味を帯びた姿で愛嬌たっぷり。



絵葉書 (高知) 浦戸湾 (釣舟) の帆傘

資料見聞

帆傘船

山崎茂さんの郷土玩具から

のんびり遊漁を楽しむ帆傘船が、張り子になっていきます。高知県の郷土玩具作家、岡林藤吉さんの作品です。

帆傘船という名前は、船に帆傘を取り付けているところからきています。帆傘は蛇の目傘の大型のもので、船を移動させるときには帆の代わりになり、日よけにもなる優れたものです。船に立てた竹の先に取り付け、帆傘の向きや傾きが調節できました。

帆傘船は高知独自のものなのか、他所にもあったものなのか定かではありませんが、第二次世界大戦以前、高知の海の玄関口、浦戸湾の風物詩として親しまれていました。

孕の 廻し打ち

日暮れに帰る 帆傘船

年に二度とる 米もある

と、よさこい節にも歌われています。

郷土玩具には、その土地ならではのモチーフがしばしば選ばれています。

戦後、帆傘船は見かけられなくなっ
ていきますが、郷土玩具の帆傘船は、
なつかしい情景の縁となるかのように
戦後になって生まれました。(中村)

企画展 船のおもちゃ凶鑑 山崎茂さんの郷土玩具

会期 平成24年7月20日(金)～9月2日(日) 中村 淳子

◆おもちゃの船団がやってきた

「多くの人形部屋から船だけ集めてみても面白いよ」

今回の企画展は、山崎茂さんのこの言葉からはじまりました。

山崎さんが収集した郷土玩具は、約1万2千点にのぼり、船だけでも100点以上あります。

一昨年12月、山崎さんは、郷土玩具コレクションのすべてを当館にご寄贈くださいました。現在、その運搬作業を続けていますが、企画展にあわせて船のおもちゃを数回に分けて運んできました。

それらを見てみると、北海道にはアイヌの信仰から生まれたイナウ（木幣）の付いた「丸木船」、捕鯨が盛んだった和歌山県や高知県には「鯨船」という具合に土地土地の特徴があらわれていて確かに面白いのです。

◆郷土玩具にみる船の文化

船の郷土玩具の多くは、漁業の盛んな海辺の町や村で生まれました。「カツオ船」や「海苔船」などさまざま



漁船が郷土玩具になっています。

それらのなかには、大漁や航海の安全への願いがこめられたものもみられます。

宮城県の「唐桑のサツパ船」は御崎神社の祭礼で漁師たちが航海の安全を祈って買い求めたといわれています。

サツパ船とは、ウニ漁やアワビ漁、その他の刺網漁などに使われる小型の磯船のことです。それを模した「唐桑のサツパ船」は、家の神棚に供えた後で、おもちゃとして子どもにあたえられました。

子どもの誕生を祝う船のおもちゃもあります。広島県の「田面船」は、男の子が生まれた家に贈られるもので、車が付いたこの船をひいて神社に詣るそうです。

盆の夜に子どもがひいて遊んだという「ジョーキ」（島根県）は、ロソクを灯すと船遊びをする人の姿が浮かび上がる仕掛けです。その隣の鳥取県にも、盆行事の灯玩具の鯛車から日露戦争にちなんで作られるようになったという「軍艦」があります。

また、郷土玩具の産地ではモチーフのひとつとして船が選ばれています。例えば、熊本県の宇土張り子では、馬車や人力車とともに「蒸気船」が作られています。

蒸気船は人気だったようで、各地で

丸木船 (北海道)
アイヌのイナウ
(木幣) が立っている



鯨船 (高知県)
鯨捕りが子どものお土産に
作ったのがはじまりという



カチカチ山 (大阪府)
木船に乗ったウサギと泥船に
乗った狸が回るカラクリ玩具



山原船 (沖縄県)
江戸時代から昭和まで
沖縄で海上交通に使われた



宝船 (青森県)
下川原焼。宝や七福神が
乗っためでたい船



巖島管弦祭りの船 (広島県)
横につないだ3艘の船で
管弦を奉納



蒸気船 (熊本県)
宇土張り子。かわいい船
が明治・大正時代の面影
を伝える



ジョーキ (島根県)
ジョーキとは蒸気船。
屋形船だが、明治時代、
当地では大型船を皆
ジョーキといったという

作られてきました。はじめは新奇、やがてはレトロなものとして、蒸気船は時代の象徴でもあったのでしょう。郷土玩具の船は、おもちゃといえども日本の船の文化を映し、人びとの願いや思いを乗せて、時の流れを航ってきたのです。

◆そして航海は続く◆
山崎さんは、今年1月4日にご逝去されました。今回の展示を楽しみにしてくださったので、ご覧いただけないのは、本当に残念です。

しかし山崎さんは、「集めた人形を皆さんに見ていただくのがうれしい」とおっしゃっていました。

猫だけ、こけしだけというように対象を絞ることなく、山崎さんは郷土玩具なら何でも集めてこられました。そのため展示するときにも、テーマには事欠きません。今回は船ですが、この秋にはコーナー展「干支の玩具 巳」を開催します。

また、今回は夏休みに親子で展示を楽しんでいただけるように、船のおもちゃをテーマにしたクイズやパズル、お絵かきなどを用意しています。

これからも皆さんに郷土玩具を見ていただき、その魅力にふれていただくこと、それが山崎さんと私たちの願いです。

旧大栃高校

おお
とち

民俗資料一般公開

梅野 光興



くわ
鍬先でも
さまざまな形がある



体育館いっぱいの農具。多目的棟3階の格技場とあわせて1500点の資料が並んだ



縄ないはいろんな世代が入り乱れて和気あいあいだった



ゲストのクマさんこと篠原勝之さんはカラサオ打ちに挑戦



公開調査。地元の4人の方々(左)に、県立大の橋尾先生と学生が質問(右)

香美市物部町大栃の旧大栃高校へ館蔵の民俗資料を最初に移動してから約1年。平成24年6月2日(土)・3日(日)の両日、現在の保管状況を一般公開しました。

資料は本来、温湿度管理のできる収蔵庫に保管すべきですが、当館の民俗資料は約7万点(田辺寿男写真資料が約5万点、山崎茂郷土玩具コレクションが約1万点、民具は約1万点)もあり、館内に入らなくなってきました。そこで場所を探していたところ、大栃高校が平成22年に閉校したことを知り、体育館と多目的棟3階の格技場をお借りすることになったのです。現在は、比較的大丈夫と思われる、農具や山林用具を主に保管しています。

今回は現状の公開ということで、資料はブルーシートに並べただけ。キャプションも無く、コーナー毎の簡単な説明を付けたぐらいで、一体どれくらいの方にきて頂けるか不安でしたが、初日は約1000人、2日目は約1500人と、幸い大勢の方にご来場頂きました。地元物部町からも来られていましたが、高知市などからも多数の方に足を運んで頂きました。

初日の目玉は地元の経験者をお招きして民具の使い方を聞く公開調査「みんなで語ろう!物部の暮らしと文化」です。4人の方に来て頂き、高知県立大学の橋尾先生と学生4人、そして私がお話を聞きました。

農業の道具についてお話を聞く予定でしたが、焼き畑耕作だけでも時間が足りないくらいでした。アンケートも「経験者のお話は奥が深くてそれぞれの農具に息が吹き込まれたような気がします」「土の臭いのするトークで涙が出そうだった」と好評でした。

2日目は、香美市教育委員会主催の「親子で体験!いざなぎ流御幣切り教室」の御一行が来場、ゲストの篠原勝之さんを交えて、カラサオ打ちや藁縄ないに挑戦しました。

決して派手な催しではありませんでしたが、会場では昔を懐かしむお年寄りの姿や、何に使うのか知りたがる子どもさんの姿、資料を撮影したり計測される研究者の姿も見られ、鳥のさえずりが聞こえる自然豊かな環境で、穏やかな時間が過ぎてゆきました。

民具の魅力にふれた2日間。これからの展開についてもいろいろな示唆を得ることができました。今後の企画にご期待下さい。

おめでとう!!



テーマ展「兜の名品」特別プレゼント

当選者は可愛ら女の子でした!

兜のコレクターとして名高い

東敏夫さんよりご提供いただいた「金剛力士張懸兜」を見

事ゲットしたのは、愛媛県在住の女の子でした。

抽選は、テーマ展終了後

厳粛に行われ、当館の館長が引き

当てました。応募総数は驚きの361件。

応募用紙を細かく見ていくと、県外から来られた女性の応募が多かったようです。「キモカワイイ」造形がウケたのかもしれない。



贈呈式にて (2012. 6. 3)

「家の守りにしたい」(兵庫県Iさん)「この資料館がスキです。ついでに面類もください!」(東京都Nさん)「兜ってかっこいい。絶対当たりた!」(徳島県Yさん)など、熱いコメント入りの応募用紙も多数ありましたが、みなさんごめんなさい。全員落選でした。

バスを乗り過ごし、一宮からわざわざ歴史民まで歩いて来たという愛媛県西予市の強者Mさん。次回こそ当たるといいですね。

たくさんのご応募ありがとうございました。

※今秋の刀剣展の時にもプレゼント第2弾を予定しています。(野本)

着任の「あいさつ」

おおくろ 恵理



この4月に当館に学芸員として着任した大黒恵理です。生まれも育ちも兵庫県で、高知に来たのは今回が初めて。風土・ことば・慣習の違いにとまどうことも多いですが、周りの方々に支えていただきながら毎日を過ごしています。

専門分野は歴史(近世)で、江戸時代

の庶民の「家」制度、特に家女(いわゆる家付き娘)と婿養子の関係性について研究しています。扱う資料は江戸時代の庶民が書いた日記や証文。華やかさはありませんが、名もない人々がたしかに生きていた証として、私にとっては何よりも魅力的なものです。「今日は何を食べた」とか「隣村と争いごとが起こった」とか:そんな日常

の記録を読んでいると、300年前の人々が非常に身近な存在に感じられて、人間の喜びや悲しみ、悩みとは何と普遍的なものだろう、と思わされるのです。これから高知の古文書を読んでいるなかで、江戸時代の高知の人々が何を語りかけてくれるのか、楽しみです。

高知に来るまでは兵庫県の伊丹市立博物館で古文書を扱っていました。伊丹では、阪神・淡路大震災で多くの歴史資料が失われたことを教訓にして、

毎年1地区ごとに調査に入って地域に残る資料を把握し、所蔵者の方々と定期的にコミュニケーションをとる事業に携わっております。またその成果を、市民の方々に地域の歴史に関心をもち、愛着を深めていただけるように「地域展」として毎年1村ずつ公開してきました。

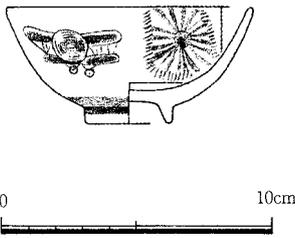
調査を通して最も強く感じたのは、調査に入るのが遅すぎたということ。調査のときに全部捨ててしまった:調査に入るたびにそう言われ、本当に多くの資料が震災で失われたことを実感しました。私自身も震災の恐怖は鮮明に残っていますが、人命や建築物、ライフラインだけでなく、このようなところにも震災の影響があるとは、当時子どもだった私は思いもしませんでした。近年、高知でも再び南海大地震の危険性が叫ばれています。地域に残された資料を守るために何ができるか、何をやらなければならぬか、模索していきたいと思えます。

高知に関しては地理も慣習も知らないことばかりですが、様々な方にご指導いただきながら頑張ります。どうぞよろしくお願いたします。

考古

高知・現代の考古学 ― 発掘された子ども茶碗 ―

高知市の中心部にあたる高知城の西に西弘小路遺跡（にしひろこうじ）があります。かつて、高知市民病院があったところで、現在は総合安心センターが建っています。この遺跡の発掘調査報告書『西弘小路遺跡―高知市文化財報告書第34集―』が2010年3月に刊行されました。西弘小路遺跡からは、近世の武家屋敷跡に関連する遺構や遺物が確認され大変注目されています。この報告書のなかに1点だけ現代の遺物、子ども茶碗（飯茶碗）が報告されています。東京都では、すでに1986年に『麻布台一丁目郵政省板倉分館構内遺跡』の報告書の中で取りあげられています。西弘小路遺跡で出土した茶碗は完形品ではなく約半分に割れています。口径9cm、底径3.1cm、高さ4.4cmで、やや小さい飯茶碗です。外面には軍旗と飛行機が交互に描かれ、高台上部から腰下半には色付けがされています。この子ども茶碗は、高知で初めて発掘調査で出土、報告された第1号の子ども茶碗のようです。茶碗は戦時下の子ども茶碗であることを示すように、軍国調の絵が描かれています。しかし飛行機はやや可愛らしく描かれています。



攪乱層出土遺物実測図

（『西弘小路遺跡』2010年3月より）

戦時下とはいえずとも茶碗には手間がかけられているのです。そんな子ども茶碗にも、職人のこだわりや食卓の様子、歴史が刻まれているので

（岡本）

歴史

絵金の芝居絵屏風が歴民に！

今年には絵金（1812―1876）生誕200年目に当たるため、赤岡町などを中心に、各種イベントが目白押しです。

昨年度、野市町深淵神社の総代の方々から、同神社所蔵の芝居絵屏風12点（二曲一隻）を預かってほしいとの要請を受けました。これらの屏風は、いずれも町絵師・金蔵の工房で制作されたものと思われ、赤・黄・緑を基調とした鮮やかな泥絵具を使用した大胆な構図はいかにも「絵金」という雰囲気を出しています。題材は「仮名手本忠臣蔵」など、義太夫・歌舞伎の一場面であり、なかでも「菅原伝授手習鑑 車引」など4点は、深淵の弟子・野口左巖（通称深淵絵金）の作です。

深淵では、地元の若い衆が半年間の夜なべの銭を貯め、絵金に夏祭りのための芝居絵を頼んだものの、1枚2両もする画料を払えなかったため、弟子（野口ら）に大半を描かせたうえで、絵金が要所を補う形で仕上げたと伝えられています。

「この屏風を外に出すと必ず雨が降るといわれちよります」という総代さんのお言葉もあり、搬入の日は大雨となりました。

（野本）



今年の3月までは龍馬歴史館に展示されていました

民俗

いざなぎ流研究会

企画展「蔵のなかの民具たち」の関連企画として、5月4日（金）に「いざなぎ流 えびすの倉入れ」を移築民家で再現公開しました。幻の神楽を一目見ようと200人の方が集まりました。東京の和光大学の学生さんをはじめ、福岡県、島根県、大阪府など県外から駆けつけた方もおり、民家の庭はぎゅうぎゅう状態。半田敏張さんをはじめとする保存会の方々や小中学生の熱演に会場は静かな感動に包まれました。

ただ、いざなぎ流神楽保存会も高齢化が進んでいます。当館ではいざなぎ流の継承や保存に何か力を貸すことができないかと、いざなぎ流の伝わる香美市の教育委員会や県立大学、そして県外の研究者の方々と昨年より相談会を行なっています。その結果、

山本ひろ子先生のご尽力で、11月24日に和光大学でいざなぎ流シンポジウムが開催できそうです。それを受けて高知県における研究会も計画中です。

（梅野）



小学生が富男役になって、えびす棚に米、金、酒を持っていく。

今年も大盛況! 岡豊山さくらまつり

今年で3回目となった、岡豊山さくらまつり。今年もお天気に恵まれ約1万1千人のご来場でした。
岡豊山さくらまつりのメインイベントである、土佐の食1グランプリでは、安芸市のちりめん井が優勝しました。
(猪野)



第3回長宗我部フェス!開催しました

恒例の長宗我部フェス! 今年も声優石野竜三さんに特別ゲストとしてご参加いただき、今年初開催となった「出陣式」のナレーションを行っていただきました。
長宗我部国親・元親・家臣に扮した甲冑

武者が、三献の義と呼ばれる出陣前の儀式を再現しました。
また、豊後大友宗麟鉄砲隊も九州より駆けつけ、見事な演武をご披露いただきました。
(濱田)



「蔵の里めぐり」開催

写真でしか紹介できていない蔵の実物を見に行こうという企画です。
当日午前中は、後藤孝一先生のご案内で高知市春野町仁ノを、午後からは中脇修身先生のご案内で香南市野市町を回りました。実物を前にしたご説明は具体的にわかりやすく、各地の蔵のある風景は魅力的でした。曇り空の過ごしやすい気候のなか、充実した1日を過ごすことができました。
(梅野)



初夏の1日、さまざまな蔵との出会いがありました

岡豊山フォトコンテスト

岡豊山の写真を撮影した作品を募集した岡豊山フォトコンテスト。
今年も44点の応募があり、見事最優秀作品に輝いたのは、渡部忠男氏の作品、「緑映」でした。
最優秀を含む入賞作品は、1年間当館で展示させていただきます。
次回も皆様のご応募お待ちしております。
(猪野)



緑映

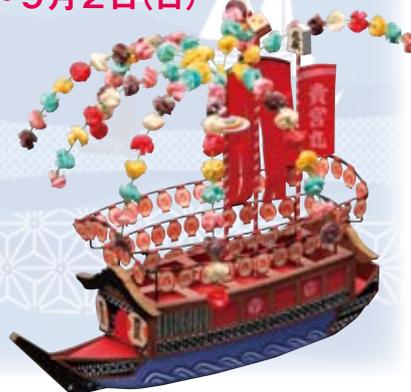
コーナー展 深淵神社の芝居絵屏風
2012年 8月1日(水)～8月31日(金)
本年より毎夏、芝居絵屏風(2点ずつ)の展示を行います。

夏休み 企画展 **船のおもちゃ図鑑**

山崎茂さんの郷土玩具から

2012年 7月20日(金)～9月2日(日)

日本各地の船の文化を反映した郷土玩具を展示します。山崎茂さんのコレクションから和歌山や高知の鯨船、京都の船鉾など約100点を図鑑風に紹介します。



▶貴船まつりの貴宮丸 (神奈川県)

予告 東京写真月間 2012巡回展
2012年11月17日(土)～11月25日(日)

コーナー展

えと 干支の玩具



予告

2012年 11月19日(月)～12月23日(日)

山崎茂さんのコレクションから来年の干支「巳」にちなんだ蛇の郷土玩具を展示します。蛇好きな方もそうでない方も蛇の意外な魅力がみつかるかも。



▶達磨寺の干支土鈴 (京都府)

◆展示室トーク 12月1日(土)14:00～14:30
講師：担当学芸員 ●予約不要

◆ワクワクワーク 「巳張り子の絵付」
11月23日(金) 14:00～15:30
講師：草流舎のみなさん
●電話等で要予約(先着30名)
●材料費要

展示室トーク ●予約不要・観覧券要 (講師:担当学芸員)

7月21日(土) 14:00～15:00

8月21日(土) 14:00～15:00

ワクワクワーク ●電話等で要予約(先着30名) ●材料費要

8月4日(土) 10:00～12:00 琥珀で勾玉を作ろう

8月12日(日) 10:00～12:00 ポンポン船で遊ぼう

企画展開催中 ●常時下記のイベントを行なっています

- 船のおもちゃの絵をかこう!
- クイズに挑戦!
- シップマップパズル

予告

特別展

平成24年度 高知・岡山文化交流事業 I

刀 武士の魂

—備前の名刀と土佐ゆかりの刀剣—

2012年 10月6日(土)～12月23日(日)

平成7年以来の本格的な刀剣展です。I部「備前刀の世界」II部「土佐ゆかりの刀剣」(3階) III部「堀見家の刀剣」(1階)のIII部構成となり、「一国兼光」など国重文3点をはじめ、岡山県立博物館所蔵の名刀を一堂に展示します。また、全日本刀匠会中国・四国地方支部の協力により、古式鍛錬の実演や銘切り体験等のイベントも開催されます。ふるってご参加下さい。



古式鍛錬



銘切り体験

講演会

10月8日(祝)(月) 14:00～16:00
「武将と名刀(仮)」 講師：元東京国立博物館工芸課長 小笠原信夫氏

講座

10月14日(日) 14:00～16:00
「備前刀の世界」 講師：岡山県立博物館学芸員 佐藤寛介氏

特別実演とワクワクワーク

10月6日(土)・7日(日)
日本刀古式鍛錬実演と刀鍛冶体験

臨時閉室のお知らせ



●9月25日(火)～10月5日(金)

●11月5日(月)～11月18日(日)

3階総合展示室は展示替えのため上記の期間、閉室いたします。

岡山県日(おこうふうじ) 第79号
平成24年7月1日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1-099-1
TEL 0888-862-2211
FAX 0888-862-2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始(12月27日～1月1日)
臨時休館あり
観覧料 通常期(常設展)大人(18才以上) 450円・団体(20人以上) 360円
(企画展)常設展示込 500円・団体(20人以上) 400円
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp